

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

# 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、

人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

ちりめん街道の北端にある旧加悦町役場庁舎（以下、「旧庁舎」）は、街道に訪れる人々を迎える案内役の働きをします。また、近代建築史上貴重な外観と意匠、構法の旧庁舎は、日本遺産の構成文化財であり、地域の歴史や文化を伝える建物でもあります。

しかし、建築から約90年が経ち、基礎部分が著しく老朽しています。さらに、耐震性能に課題があり、平成14年以降は、1階の一部分しか使えない状況となっていました。

そこで、将来、安心して建物全体を活用できるよう、平成30年1月に「耐震改修検討委員会」を立ち上げ、修理・補強方法等について検討を始めました。また、同年6月末からは建物を封鎖して本格的な調査や実験を繰り返し行ってきました。

今回は、事業の経過や現状、今後の作業の概要についてお伝えします。

## ■文化財を交流の場に

旧庁舎は貴重な文化財であるとともに、ちりめん街道にお住まいの方、訪れる人々の交流の場としての役割を担います。令和2年（2020年）は「丹後ちりめん生誕300年」で、その働きがますます期待されます。

## ■修理・補強をはばむ壁

老朽と耐震性能の不足により、大規模な修理が必要な状態です。特に基礎や土台部分は、腐朽と蟻害がはなはだしいです。また、2階を支える柱・壁が不足しています。一般的に、修理は新築よりも手間がかかりますが、旧庁舎の場合はその程度が尋常ではありませんでした。それは、建物の魅力である意匠と構造的な価値を損なわない方法で修理や耐震補強を行う必要があるからです。修理に向けた課題は山積みでした。

## ■実施設計書が完成

建物の現状を知る詳細な調査とその結果に合わせた耐震補強設計では、大勢の専門家の方々のご協力を得ました。また、建物の活用については、地域住民の方々に思いを伺いました。そのおかげで、実施設計書ができあがり、工事の準備を進める段階に至りました。

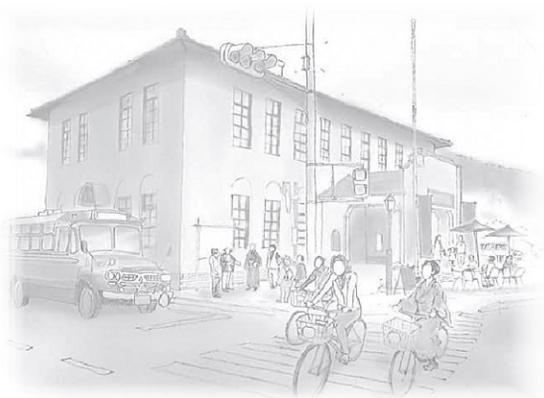


京都市の左官の匠に旧庁舎の壁の「つくり」について聞く

## ■にぎわう場へ

修理をして、観光案内所や来訪者がゆったりと休憩できる場を設けます。2階の広く、洋館の雰囲気がある旧議場は、さまざまな催しができる場とします。

また、避難訓練や初期消火訓練、防災学習会も積極的にこない、防災・減災の啓発、さらなる地域防災の強化を図る場とします。



## ■令和2年3月末に完成予定

旧庁舎は、今年の夏ごろから工事を始め、令和2年（2020年）3月末に生まれ変わる予定です。

今後、工事の進捗とともに、事業に関する話題などもお伝えしていきます。

工事にあたり、町民の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

※イラストは海の京都 与謝野町マスタープラン（平成26年1月号）の「与謝野町の『ありがたい姿』」イメージ図



昭和6年ごろの旧加悦町役場庁舎



ペーリック・ホール（横浜市山手地区） 昭和5年設計

## 建物の特徴

旧庁舎の設計者は、宮津出身で、現在の大林組の初代設計部長として活躍された今林彦太郎氏です。当社の大林組が得意とした「スパニッシュ・ミッシン様式」で建てられました。クリーム色の外壁や赤瓦の屋根、左右対称の外観などが特徴で、旧庁舎はこれらの特徴がよく体現された建築様式で、「ミッシン」とは修道院を意味します。

## 町並みのスパイス

ちりめん街道の町家は、7×8割

が昭和20年までに建てられた日本の伝統的な木造建築物です。全国で現存率が高く、落ち着きがある美しい町並みが広がっています。その中で、近代化を象徴する洋風建築物の旧庁舎は、当時からちりめん街道の町並みのアクセントとなっていました。

## 時を経ても良いもの

神奈川県横浜市に山手地区という場所があります。明治から外国人居留地として栄え、現在も異国情緒が感じられる景観地域です。そこに建つイギリス人貿易商の邸宅「ペーリック・ホール」と旧庁舎の外観が



ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

## 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

# 旧加悦町役場庁舎の魅力

前号「広報よさの6月号」で事業の経過や現状、今後の作業概要についてお知らせした「旧加悦町役場庁舎 令和の大修理」。一世紀近く存在する旧加悦町役場庁舎には、長い年月の間にさまざまな人の行き来と時代や生活・文化の変遷がありました。今回は、建築に至る過程や建物の特徴を紹介しながら、旧加悦町役場庁舎の魅力をお伝えします。

## 建築から90年

旧加悦町役場庁舎（以下、「旧庁舎」）は、それまで役場庁舎として使われていた建物が、昭和2年（1927年）3月の丹後大震災で倒壊したため、同じ場所に建て直されたものです。震災直後は、隣接する加悦小学校の一室で役場業務が再開され、同年5月に仮庁舎が建てられました。

旧庁舎は、当初、町会議事堂として計画されましたが、丹後大震災の被害を受け、役場が仮庁舎のままであり、必要とされる諸室も確保できていなかったため、計画の変更がなされました。そして、役場庁舎と町会議事堂の機能を合わせた現在の旧庁舎が建築されたのです。



2階が講場として使われていた時の様子。この写真が見つかったことにより、文化財修理として天井が復元できることになりました。

似ています。

ペーリック・ホールは、山手地区で現存する戦前の建物の中で最大規模であり、建築学的にも価値がある建物です。この建物に類似することからも、ちりめん街道の当時の繁栄ぶりが感じられます。さらに、旧庁舎はペーリック・ホールよりも早く建築されているのです。

## 建築の詳細

旧庁舎は、木造総二階建ての奇棟造、棧瓦葺で、外壁を鉄網コンクリートとしています。長方形の正面中央には玄関と車寄せが配置されています。

外観の装飾は、3カ所のメダイオンと、1階窓まわりのアーチ状の練り型程度で端正な意匠をしています。2階床は、大きな梁を梁方向に架け渡し、側柱から方杖で床梁を補強していま



小屋裏に組まれたキングポストラス 外壁のメダイオン(装飾)

す。小屋組はキングポストラスとし、旧議場の空間を広くとるとともに、奇棟屋根を支えています。

南面の意匠を凝らした出入口も洋風建物の雰囲気をよく表しています。議場の出入口であったためでもあります。ちりめん街道への敬意が込められているといわれています。

## 震災を教訓にした造り

丹後大震災の直後に建てられたことから、意匠・構造とも耐震性能について熟考がなされました。旧庁舎は簡潔な平面・立面構成となっていますが、これらは地震に強い構造だからです。

また、外壁を鉄網コンクリートとしたのは、地震後に火災が発生することが多く、屋外からの延焼を防ぐためです。耐震・耐火性能が考慮された旧庁舎は、復興のシンボルとしても大きな役割を果たしました。

## 未来へつなぐ文化財

2階のまっすぐと伸びる廊下の雰囲気、階段の細部に施された彫刻、漆喰壁と木の柱との色彩的な対比、洋風の大空間などが美しい旧庁舎。今回の修理により、旧議場の格天井を復元し、当時の端麗な旧議場の雰囲気もよみがえります。

※今後も工事の進捗とともに、事業に関する話題をお伝えしていきます



昨年7月の合同調査の様子。地震の振動数の違いによる建物の揺れやすさを調査。40度近い猛暑日が続く中、一日がかりで各種調査を実施しました

調査・協議のくり返し  
 工事の完了が令和2年3月末と設定されたため、1月に開催した初回の検討委員会後、早速3月に3日間の合同調査を実施しました。延べ80

方々の協力を得ました。  
 調査・協議のくり返し  
 工事の完了が令和2年3月末と設定されたため、1月に開催した初回の検討委員会後、早速3月に3日間の合同調査を実施しました。延べ80

### 専門委員会の設立



倉敷館（岡山県倉敷市）倉敷市指定有形文化財。旧町役場。旧庁舎と同じで、耐震性の問題から2階が使えない状態であった。建物全体を有効に活用するため、平成26年度から修理計画が立てられ、平成29年度から着工、令和元年完成予定。



旧庁舎で木部の詳細調査を実施。白アリなどの虫による被害や腐朽、それらによる部材の欠損度合い、進行性のものであるかどうかなどを詳細に調査



第2回検討委員会の様子。構造、木の耐久性・強度、防耐火、歴史等必要とされる分野の専門家が集結

次回、工事現場の様子や進捗よく状況を伝えたい。また、今回に引き続き、耐震補強や修理方法を検討するために実施した調査や実験についてもご紹介します。

人の大がかりな調査で、7月にも同規模の調査を行いました。このほか、個別の調査を何度も実施し、調査結果を共有し、協議することを重ねてきました。

※今後も工事の進捗よくとともに、事業に関する話題をお伝えしていきます

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

## 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

# 15年越しの計画が始動

7月末から、旧加悦町役場庁舎保存活用改修事業の工事に着手しました。今号では、工事の進捗よく状況や工事に至ることができた要因、昨年1月に立ち上げた旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会の設置の経過や設置後に実施した調査などについてご紹介します。



昨年4月の地盤調査の様子

貴重な文化財である旧庁舎の歴史的、構造的、意匠的な価値を損なわない修理と耐震補強は、とても課題の多い事業です。平成29年度から、観光交流課と建設課、社会教

### 事業チームを結成

しかし、基礎部分の老朽が著しく、進行もしていたため、平成27年度に予備調査を実施しました。事業が大きく動き出したのは、平成29年の夏からです。計画が停滞しました。

### 活用したい・・・

上の安全性について確認ができないという理由により、工事に至ることはできませんでした。

7月16日から旧庁舎横にある与謝野町の観光用駐車場の使用を制限しています。そして、現場事務所の搬入や仮囲いの設置などの準備後、7月31日から本格的な工事に入りました。工事の完了は、令和2年3月末の予定です。

7月末から工事に着手した旧庁舎ですが、最初の大規模な修復計画は平成15年度までさかのぼります。平成16年度に、役場、丹後土木事務所、丹後広域振興局、消防署など関係する機関で協議されましたが、「構造



左・右ノ加子母明治座（岐阜県中津川市）明治27年に建築された地歌舞伎と芝居小屋。平成27年度に耐震改修工事を実施。屋根の重量を軽減するため、瓦葺きとせず、柿葺き石置き屋根として創建当時に復元。冬季は積雪量を考慮して入館を制限。ハード面で補えない部分をソフト面に対応。





昨年9月の耐久性調査。車寄せ内部の木材が、腐朽により粉々になっていました

主要な構造部材の腐朽と白アリなどの虫害による部材の劣化状態を把握。取り替える部材の検討に加え、今後の腐朽菌や白アリの活動状況も

— 木部の劣化調査 —

— 文化財的調査 —  
京都府指定有形文化財である旧庁舎の歴史的、文化的、意匠的な価値を調査。これらの価値を損なわない耐震補強・修理方法としました。

— 地盤等調査 —

地盤の支持力を測るため、地層の構成を調べました。また、どのような振動数の地震に対して建物の揺れが増幅されるか（共振現象）も調べました。

— 実施した調査 —

— 木部調査 —



昨年6月の構造詳細調査。2階の梁と1階のフツエとの接合方法を確認しました



昨年7月の木材調査。金づちで木部に軽い衝撃を与え伝搬速度から強度等を推測

分析し、維持管理に役立てます。

— 木部調査 —

柱や梁などの樹種や含水率を調べ、木部の強度を推定。また、木部の健全度を調べるとともに構造解析の資料としました。

— 構造詳細調査 —

建物の骨格である構造軸組とそれらの接合方法を調査。現況詳細図等を作成し、結果を耐震診断や耐震設計に反映させました。



一昨年3月の外壁調査。外壁のひび割れの位置、長さ、深さなどを調査



昨年4月の内壁調査。どのような仕様となっているか一部を取り外して調査

— 各部の調査 —

前述の調査のほかに、基礎、土台、小屋組、外壁、内壁、柱、梁などの各部も詳細に調べました。モルタルや漆喰で塗り込められて

— 防耐火調査 —

1階にカフェスペース、2階にはさまざまな催しができる多目的スペースを設けるため、火災発生時の被害を最小にするための方法を検討しました。

— 耐震補強設計 —

調査結果を集約し、柔軟性のある伝統構法の木造建築物にも適応できる構造計算法（限界耐力計算）を用いて、現状の耐震性能を把握しました。そして、不足分を補う方法を検討し、補強案で再度計算して確認後、補強方法を決定しました。

いる部分は、最小限の範囲で一部をはがし、内部を確認しました。



左/右/昨年7月の外壁と基礎コンクリートの調査。シュミットハンマーで強度を調べました。※シュミットハンマーとは、コンクリートの圧縮強度を測定するもの。建物に損傷を与えずに検査ができる非破壊検査手法（文化財に配慮）



※今後も工事の進捗とともに、事業に関する話題をお伝えしていきます

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

建物の個性に寄り添って

今号は、旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事の進捗よく状況と、昨年1月末の旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会設立から耐震補強設計までにどのような調査を行ってきたかについてご紹介します。



8月2日 旧加悦町有線テレビスタジオ解体の様子

仕様の最終確認

基礎コンクリートの状態が著しく悪い場合、今回の工事で修理します。修理は、現在ある基礎にコンクリートを増し打ちして補強する方法で行います。新旧コンクリートの良好な付着が大きな課題であり、調査と実験結果をもとに、工事前に施工方法を



8月7日 実験後のコンクリート試験体で前に基礎補強の施工方法について協議

8月1日から、旧加悦町役場庁舎（以下、「旧庁舎」）に隣接する旧加悦町有線テレビスタジオを解体しました。お盆明けには、旧庁舎の床下換気に悪い影響を及ぼしていた建物北側の屋外スロープなどを撤去し、現在は、建物屋内の工事に入っています。

## 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

# 基礎部分から順に修理中です



10月10日時点の旧加悦町役場庁舎内

旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事の進ちよくですが、9月27日に基礎コンクリートを打設しました。前日まで、雨が降りそうな予報でしたが、雨は降らず工事日和となりました。10月末までに外周の基礎工事を終え、11月から木工事（修理・耐震補強）などに入る予定です。

### ■ 土壌対策

基礎コンクリートを打設する前に、土壌の白あり対策を実施。土の掘削では、機械が入らない北側の居室は、人力で行われ、蒸暑い中での大変な作業となりました。



### ■ ひと息

また、工事を進める中で、建具の鍵に白鼠のデザインがあることが分かりました。工事が完成し、ご来場の際には、ぜひ、ご覧いただければと思います。

上／天井まで届き  
そうなほど山積み  
になった掘削土  
右／白の漢字の  
下に鼠のイラスト



### ■ 一歩ずつ進んでいます

基礎コンクリートの打設は円滑に進みました。特に左官職人による表面の仕上げは見事でした。また、本事業が国庫補助事業の対象であるため、



10月11日に、文化庁の調査官が現地確認に訪れ、2階旧議場の天井の仕様などについて相談・協議しました。



上／打設直前のコンクリート品質検査  
下／基礎コンクリート打設中の様子

※今後も工事の進ちよくとともに、事業に関する話題をお伝えしていきます



11月5日、耐震補強のため新設の柱4本を据えました。この柱が新設する鉄骨梁を支えます。



11月14日の建物内部（1階）。外周の柱は内側から添柱で補強しました。

### 耐震補強工事

2階も有効に活用できるようにするための耐震補強工事も始まりました。上部（2階以上）の荷重を支え、建物のねじれを防ぐ鉄骨梁と柱4本を新たに設置しました。工事の要となる工程のひとつです。また、外周にある方杖がつく柱を添柱で補強しました。この他、荒壁（土壁）パネルで旧町長室など北側居室等の壁を補強します。

### 天井や内壁も

天井や内壁（漆喰壁）の修理も始めています。また、新設の梁と柱が納まり、1階床下の木工事も始まりました。2階旧議場の天井板は、当時は新素材として高級であったベニヤ板でつくられていました。うち、4枚のみに装飾が施されていて、この4枚だけが現存しています。他は、雨漏りによってたわみ、多孔質のボードに張り替えられていました。今回の修理で天井板もベニヤ板で復原します。



現存する建築当初の天井板



修理中の2階旧議場の漆喰壁。建築当初は薄いクリーム色（黄大津）であったことが分かり、本工事で復原します。

※今後も工事の進捗とともに、事業に関する話題をお伝えしていきます

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

## 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

# 耐震工事が進みました

旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事の着工から4ヵ月半が過ぎました。今回は、10月中ごろから約1ヵ月間の工事の進捗をお伝えします。9月の屋内の基礎工事に続き、10月末には外周の基礎工事を終えました。11月から耐震補強工事や木工事などを始め、建物内は一層工事現場らしくなってきました。



【足場が組まれた外壁】大規模に足場を組んだ機会を利用し、大屋根の状態も確認しました。雨漏りはありませんでしたが、大屋根の装飾にもなっている換気棟のアーチ型の窓枠が積層の木材でつくられていて、木部の経年劣化から、大雨の時に雨水が建物内に入り込むことが分かりました。今回の工事で修繕します。



【外部の基礎部分】外周の基礎工事が終わり、既存の基礎を内と外の両側から補強できました。床下への雨水侵入の原因や床下換気を妨げていた屋外スロープは撤去し、側溝を設けました。

### 外壁の修理

外部に足場を組み、まず、外壁のクラック（ひび割れ）の詳細調査と雨樋の劣化度の調査を実施しました。その後、外壁を高圧洗浄し、表面の汚れを落とし、現在は、クラックの補修工事に入ります。



左・右 鉄骨の新設には、11月6日・7日の丸2日間を要しました。修理工事のため重機が入らず、人力で大変な作業となりました。

# 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

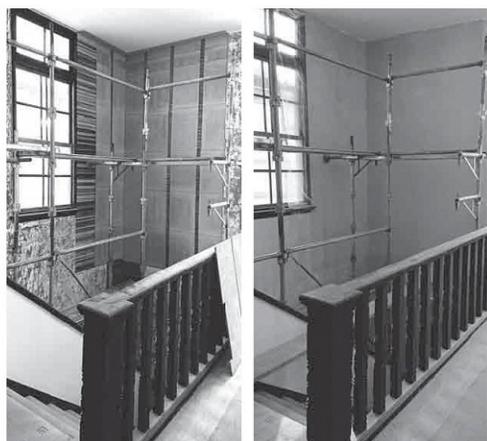
～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

## 建築時の雰囲気がよくえりつつあります



12月5日 修理中の2階旧議場の天井

旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事の進捗ですが、2階旧議場の内壁は、大津壁（クリーム色の漆喰壁）への復原を終えました。つづいて、格縁天井に復原する修理工事を進めています。少しずつ、約90年前の建築時の雰囲気に近づいてきています。



南側階段 左／耐震補強のための土壁パネルを施工中  
右／仕上げの漆喰塗りの下準備（中塗り）後

### ■ 内壁の耐震補強工事

南北の階段の踊り場付近や1階の北側居室などを土壁パネルで補強します。パネルを張り終えたため、順次、仕上げ（漆喰塗り）のための準備作業（下塗り・中塗り）を進めています。

### ■ 文化財修理

床下の工事のため、別の場所で保管していた1階の床板を、もとのとおりに張りなおす作業も始まりました。文化財の修理工事ならではの、たいへん手間のかかる作業です。取り外す時の部材の整理と、もどす時の施工技術が重要です。

### ■ 空間の雰囲気を決める色味

2階旧議場の室内は、建築時の色味に復原します。木部の灰色の塗装が、クリーム色の大津壁になったことで、適度な色の対比となりました。折上げ天井で、もともと白漆喰塗りの部分は、変わらず白色で修理しています。



左／1階の床板を張る様子



右／2階旧議場の大津壁と折上げ天井の白漆喰塗り部分

※今後も工事の進捗とともに、事業に関する話題をお伝えしていきます



12月19日、修理工事中の旧議場（建物2階）の様子

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

## 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

# 各部の工事が同時進行中

旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事の進ちょくをお伝えします。屋外に接する窓の復原工事、腐朽や劣化が特に著しかった車寄せの修理、耐震壁や耐震梁の仕上げ工事など、各部分の工事が同時に少しずつ進んでいます。



修理工事が順に進む車寄せ（右端が12月19日現在の様子）



屋外に接する建具の復原工事の様子。なお、文化財保存修理のため、既存の窓ガラスは、慎重に取り外して再利用します。破損などやむを得ない部分のみ新しいガラスに替えます。

### 窓の復原修理

屋外に接する窓で、上げ下げ窓に変更されていたものは、建築当初の両開き窓に復原します。とても重く、開け辛かった窓の開閉がしやすくなります。ただ、開閉方法の変更がなされたのは、風に煽られやすかったことが原因と考えられます。よって、復原修理後は、より丁寧な扱いが必要となります。「ハード面に対応できない部分はソフト面で補う」、文化財修理においても重要な考え方です。



屋根部分を修理中の車寄せ

### 車寄せの工事

壁内部への雨水の侵入が原因で、梁が手で粉々に砕けるほど、腐朽や傷みが著しく、危険な状態であった車寄せは、順に修理が進んでいます。腐って消失していた梁と柱の部分には新しい木材が入りました。また、近年、補強として設けられたものの、根元が腐朽していた鉄骨の支柱は取り外され、建築当初の車寄せの造りに復原されました。続いて、左官と屋根部分の修理工事をおこなっています。

**杉の木を切ります**  
学校再編により、令和2年4月から加悦小学校スクールバスの運行が始まります。それに伴い、バスの通行を妨げる電柱を、ヒマラヤヤシがある位置に移設しなければなりません。そのため、旧加悦町役場庁舎敷地内のヒマラヤヤシは伐採することになりますので、工事の進捗と合わせてお知らせいたします。



移設する電柱（写真左）、伐採するヒマラヤヤシ（写真中央）、ヒマラヤヤシ右隣のカイズカイブキも、一部を剪定します。現在ヒマラヤヤシがある場所に電柱を移設します。

### 耐震補強の梁や壁

耐震補強のため、建物西側に新設した鉄骨は、仕上げの工事を進めています。旧加悦町役場庁舎屋内の雰囲気と調和するよう、木と漆喰で仕上げます。また、同じ目的で新設する壁も、土壁パネルの施工が終わり、漆喰塗り仕上げとするための準備が進んでいます。下塗りがなされ、土の乾き具合を見て、中塗り、仕上げ塗りと順を経て修理が進みます。



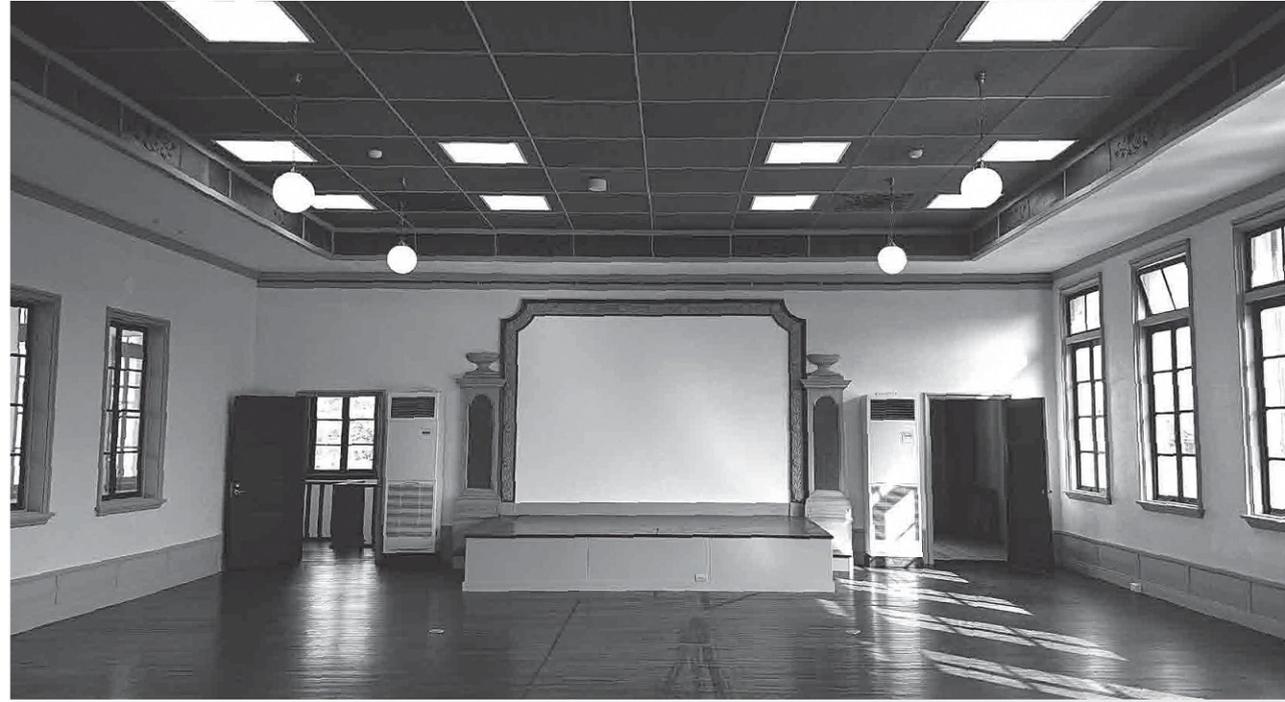
建物西側に新設された、耐震補強のための梁・柱・壁



2階西側の真っ直ぐに伸びる廊下（写真右）や階段あたり（写真中央）も見どころのひとつです。写真にも映えます。建築時の建具（写真左）も建物に趣きを加えています。4月から展示空間となる旧町長室と旧応接室内も見学できます

見どころ

復元した旧議場のほかにも見どころはあります。旧議場は4月から貸しスペースとして使用いただけますが、通常時は見学できません。ぜひ、来館いただければと思います。



2月6日撮影。2階旧議場の復元された大津壁（クリーム色の漆喰壁）、格縁天井、屋内扉、屋外に接する窓

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

4月1日の開館まであと少し

旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事の進捗をお伝えします。同時に進められていた各部の仕上げ工事は最終段階となりました。そのため、駐車スペースのライン引きなど敷地内の整備も進められ、いよいよ開館という雰囲気になってきました。

未来へつづく

この保存活用改修工事は、計画から調査、実験、屋内外の各種工事、敷地内整備に至るまで、多くの方々のご尽力のもと実現しました。丹後大震災直後の復興を願う強い思いのもと建てられた旧加悦町役場庁舎は、約90年を経て、慎重に修理がなされ、また新たに時を刻む建築物となりました。この貴重な建物が、屋内の家具なども含め、今後も大切に使用されることを願います。



2月6日に撮影した1階の様子。写真左側（建物西側）の耐震補強のための鉄骨梁、それを支える柱、補強壁の仕上げが完了しました。写真右側（建物東側）の建築時の鉄骨梁と柱の仕上げに調和するよう漆喰と木材で仕上げています

— ご協力をお願いします —

旧加悦町役場庁舎の駐車場は、工事のために範囲を縮小し、使用いただける方も制限させていただきました。工事完了後の駐車場については、本来の使用目的である「旧加悦町役場庁舎に入館される方」、「ちりめん街道に観光などで来訪される方」のための観光駐車場として整理をさせていただきます。引き続き皆さまのご協力をお願いします。



※次回は宮津高等学校から寄贈いただいた旧加悦町役場庁舎の構造模型を紹介します



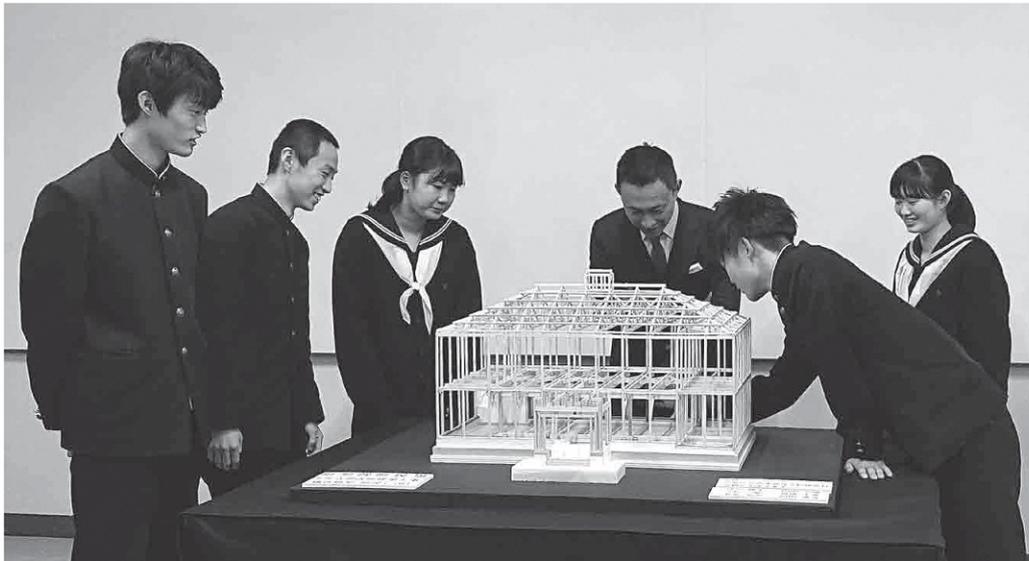
建築時の建具の色味に合わせて調合された塗料が仕上げに塗られています。細部までいねいに工事が進められました



2月6日、玄関北東から撮影。車寄せの修理も大部分が完了しました。文化財の修理工事のため、修理後の外観に変化はほぼありません。ただ、建築時から続く現状の外壁は、スタッコ塗りと呼ばれるもので、施工には技術と手間を要し、建築物に重厚感や高級感を生む仕上げです。旧加悦町役場庁舎のものは特に手が込んでいる海綿タキ仕上げで、同じように施工することが難しく、魅力のひとつと言えます

着々と……

仕上げの工事が着々と進んでいます。それにつれ、屋内の雰囲気もぐんと向上しました。修理・復元工事を経て、この建物が復興や近代化の象徴となるよう、思いを込めて建てられたことにあらためて気付かされました。平面構成や外観の装飾はシンプルなものとしながら、細部には意匠を凝らした端正な建物が息を吹き返しました。身近にありますが、昭和初期の建築技術を知る上でも貴重な文化財建築物です。



寄贈式後、構造模型を前に山添町長に模型の解説をする宮津高校の生徒たち。令和元年度卒業の3年生には修理後の模型を、平成30年度卒業の3年生には修理前の模型を製作・寄贈いただきました



小屋裏に起振機を設置する様子

この実験は、小さな振動を起こす機械を使い、地震の振動数の違いによる建物の揺れやすさを調べるために行うもので、揺れの特徴により、建物の構造的なバランスも調べることができま  
す。実験直後のため、これからデータの解析・検証がなされます。結果はあらためてお伝えします。

### 修理後の建物で調査も

立命館大学の吉富信太教授よしとみしんたの研究室に、平成30年7月の合同調査で実施いただいた調査(実験)を、修理後の建物においても実施いただきました。

2体の模型を展示中  
現在、旧庁舎の1階で、2体の構造模型を展示しています。一つは修理前(建築当時)の構造模型で、もう一つは修理後のものです。文化財建築物であるため、修理前と後の違いが分かりやすいようにと、2カ年かけて、それぞれ製作・寄贈いただきました。迫力ある模型を、ぜひご覧ください。



3月9・10日、加振実験の様子。2階床面に起振機を置き、建物内に設置された20台ほどのセンサーで振動計測を行っています



小屋裏で加振中。データ計測中の吉富教授研究室の学生たち

ちりめん街道のコンシェルジュ《案内役》

## 旧加悦町役場庁舎 令和の大修理

～修理によって建物が息を吹きかえし、人々の交流が生まれる場として未来へつづくことを願って～

# 4月1日に開館を迎えました

旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事が無事に完了し、1階には観光案内スペースを設け、4月1日から開館しています。今回は、宮津高等学校建築科の生徒に製作・寄贈いただいた旧加悦町役場庁舎の構造模型と工事完了後に実施された耐震性能にかかる実験についてご紹介します。



2月25日、宮津高校で行われた寄贈式の様子。寄贈式では、製作いただいた生徒の皆さんに、旧庁舎の構造的な魅力、模型製作にあたり特に力をいれた点などについて発表していただきました

宮津高校生徒による旧加悦町役場庁舎(以下、「旧庁舎」)の構造模型製作のはじまりは、平成30年に実施した旧庁舎保存活用改修工事のための大規模調査にまでさかのぼります。大規模調査を、宮津高校建築科の生徒2人と担当の先生が見学され、「何か協力できれば……」と声をかけていただき模型製作が始まりました。



寄贈いただいた旧庁舎の構造模型。文化財建築物の修理であることから、今回の保存活用改修工事で新たに設けられた部分には色が付けられています。建築当初の木組みと基礎、耐震補強のために設けられた柱や梁、基礎部分がひと目で分かります